

報道関係者各位

2021年8月30日(月)  
株式会社明電舎

## シンガポール MRT トムソン・イーストコースト線 (stage2) を 完工し、8月28日に開通しました

株式会社明電舎（取締役社長：三井田 健 / 東京都品川区）の現地法人 Meiden Singapore Pte. Ltd.（以下、明電シンガポール）は、シンガポールの Land Transport Authority（陸上交通庁）から単独受注したトムソン・イーストコースト線向け鉄道用電力設備（Contract T253）の stage2 を 2020 年に完工し、引き渡しを行っていましたが、この路線が 2021 年 8 月 28 日に開通いたしました。

トムソン・イーストコースト線は、シンガポール北部のウッドランズから中央部の住宅街を抜け、南部中心市街地を經由して東部にあるスンガイベドックに至る全長 43km・32 駅の通勤路線であり、その内、明電シンガポールが車両基地及び 22 駅の鉄道用電力設備一式(stage1～stage3)を受注し、システムコントラクターとして 66kV 受変電設備、22kV 受変電設備、750V き電用直流電源設備、及び、電力遠方監視装置の基本設計から製造・据付け・試験調整引渡しまで一貫して請負っているほか、stage4～5 についても、電力遠方監視装置や非常停止設備などの一部重要設備の納入を予定しており、明電シンガポールが全線にわたり携わっております。

本プロジェクトの stage1 は 2020 年 1 月に開通しておりましたが、今回の stage2 は stage1 からの延伸に当たり、北部に位置するスプリングリーフ駅から南方向に、レンタール駅、メイフラワー駅、ブライトヒル駅、アッパートムソン駅、カルデコット駅の合計 6 駅を結ぶ全長 13 km の路線となります。

MRT(Mass Rapid Transit)※は、シンガポール建国以来、近代化計画の主要事業として建設が進められてきた東南アジアでは最も充実した都市鉄道です。

明電グループは 1985 年の MRT 第 1・2 期（現在の東西南北線）建設において電力システムコントラクターとして携わって以来、多くの路線に参画してきました。現在は開業後約 30 年経過した東西南北線システムの一括更新という他に例を見ない大型プロジェクトも並行して進めており、2023 年の完工を目指しています。

明電グループは今後も、長年培ってきた海外電鉄事業の技術と経験を生かし、都市の抱える環境課題の解決や経済発展に寄与することで、鉄道が導く持続可能な社会の実現に貢献をしていきます。



トムソン・イーストコースト線路線図

※ 大量高速輸送システム